

タイトル	「生徒間相互評価における『文章による評価』の評価について」
発表者	埼玉県立越ヶ谷高等学校 中島 聡
<p><b>【主な発表内容】</b></p> <p>特に資料はなし 埼玉県高等学校連合教育研究会 2006（ピンクの冊子）の P. 29 冊子</p> <p>今回の発表は、前回・前々回（他の場所で発表されたもの）に続いての 3 回目の発表になります。前回のものなどを知りたい方は、Web 上の PDF ファイルを参考にしてください。</p> <p>経緯</p> <p>不定型青果物の評価は相互評価が一番 → 手計算では集計が面倒。 → 相互評価の利便性を上げるために、ソフトウェアを開発 → 手間が省け複数回行うことも可能に → 同一課題を複数回評価し、作品の変化を評価 → 「文書による評価」を評価が必要！</p> <p>開発したソフトウェアについて 生徒のコンピュータ環境について OS は UNIX を利用</p> <p>文章の評価の方法 これも、生徒間の相互評価が良さそう！ 理由は・・・</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 文章をコンピュータで評価するための人工知能を私は作ることができない。</li> <li>2. 評価を行うにふさわしい立場は、評価を受けている作品の作者。</li> <li>3. 評価もコミュニケーションと捉えるならば、相互にやりとりする必要がある。</li> </ol> <p>生徒間の情報の流れ（p.30 図 1 参照）</p> <p>評価結果の閲覧 発表時の生徒の反応が良い。 生徒は自分が日本語の表現は完璧と思っているが、そうではないことがわかり、刺激を受ける。</p> <p>評価の分布（p.31 図 2 図 3 参照） 評価文章に対する評価の具体例（P.31～32 参照） 評価を行うことによる、評価文章の文字数の変化（P.32 参照） → 平均の文字数はほとんど変わらない。</p> <p>評価文章の文字数と評価成績の相関（p.32 図 4 図 5 参照）</p>	

## 成果物の成績と評価文章の成績との相関

→ 相関なし (webデザインと文章作成能力の相関はない)

## 独断的結論

「評価文章の評価」にも「相互評価」はかなり使える！

1. 生徒の評価もそれなりに信頼できる。
2. 生徒に自己の国語力を実感させることができる。
3. 文字数だけで評価しても完全な的外れではない。
4. 国語力とマルチメディア（デジタル）表現力には相関関係がない。

## 今後の課題

特に考えていない。

もっと良い方法があれば教えてください。

## 質疑

- 相互評価を繰り返すことにより、生徒の国語力は伸びたのか？
  - 対象とする生徒が変わっているので、伸びたかどうかわからない。
  - 再評価に対する評価をしていないので、伸びたのかわからない。再評価をする時間がない。
- 評価文章の評価において、文字数と相関があるとのことですが、再評価のときの文章は長くなっているのでしょうか？
  - 再評価のときはコメントの対象が違うので、一概に比較できない。
  - 再評価されたときのリアクションが大きい、そのことに意味があり改善をしているようです。

WEB への資料公開許諾	許可 <del>不許可</del>	記録者氏名	相澤 学 (神奈川)
--------------	-------------------	-------	------------